

市民文芸

応募方法

一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する地名をはっきり書き、〒989-0257白石市字巨理町37-3、白石市情報センターへ。短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

歌壇

高橋辰男選

軒先に整然と並ぶ柿すだれ初冬の陽差しやわらかに受く 八嶋 正子
 納屋隅にぼつんと転がり出番なる冬至待ち居り南瓜が一つ 佐藤 ひと
 三十年勤め終えたる吾が背なを初冬の陽さし優しく包む 石田みどり
 「こんにちは又来ましたよ宜しくね」季節忘れず白鳥は来る 高野 伝
 小春日を縁に端居し憩うとき先ず眼にうつる石路の花 大槻 正兄
 樺大樹も裸木となりて冬空に沈黙のまま春を待つなり 岡崎 澄子
 待ち待ちしクラス会の通知届けども足弱くなく行くをためらう 平間 久子
 晴れた日に美容院へと遠き道歌を唄いつつ歩けば楽し 太田 敏子
 霜くるたび味の深まる大根を今日はふるふき明日は引菜に 阿部みさ子
 ベッドより朝焼雲を見て居るにまたたくひまに姿変われり 鈴木セツ子
 評一 一首目。初冬の淡い日差しと澄んだ空気が、そこで干しがきは甘くおいしく変身する。季節感十分の歌。二 一首目。古い風習の冬至カボチャは、どこいまだ生きている。「出番」がいい。三 一首目。永年の勤めを終えた自らをいたわり、いとおしむ感慨が下句にこめられた。

柳壇

山田風流選

石垣の少し崩れて石路の花 大庭 良子
 農として神宮曆求めけり 岩沢 伍峯
 気まなる老の夕餉や玉子酒 三浦 愛嶺
 麗かや新郎新婦に喝采す 制野 リエ
 夕陽さす蔵王の嶺を鳥渡る 水戸 光穂
 評一 一首目。今年は何と喪中のはがきが多いことが。寒々とした夜空には星がきらめく、しみじみとした句である。二 一首目。冬の初めに見る綿虫、風より軽く漂うのである。綿虫の命を思う。三 一首目。夏目漱石の「吾輩は猫である」、忌日である猫と漱石の取り合わせが面白い句となった。
 俳句勉強会は毎月第二土曜日、第四日曜日に中央公民館で十二時より行っています。

俳壇

遠藤秋尾選

こんなにも喪中の葉書星冴ゆる 山家 弘子
 綿虫の風よりかくく漂へり 佐藤 周子
 野良猫の嬉びししくさや漱石忌 日下 文
 落葉してベンチに掛ける人もなく 高橋 正男
 掃けば又風がつれるる落葉かな 川村 静恵

身体も心もリフレッシュ

私たちのサークルは、毎月第1・3火曜日の午前中に「あしたば白石」で活動しています。シェイプアップ体操という名称ですが、実際は八巻奈美子先生の指導の下、エアロビクスをしています。
 難しそう、ハードそうと思われるがちなエアロビクスですが、このサークルでは、各自の運動能力やその日の体調に応じてエクササイズをしているので、経験や年齢を問わず身体を動かすことができます。
 なにより音楽に合わせるので、より楽しくそう快な気分になります。また、あしたば白石では託児をしてくれるので、小さいお子さんがいるお母さんも参加できます。
 運動を始めたいと思っている方、肩凝りなど体調がすぐれない方、ストレスを感じている方など、私たちと一緒に汗をかき、身体も心もリフレッシュしませんか。ぜひ、見学、1日体験をしに来てください。

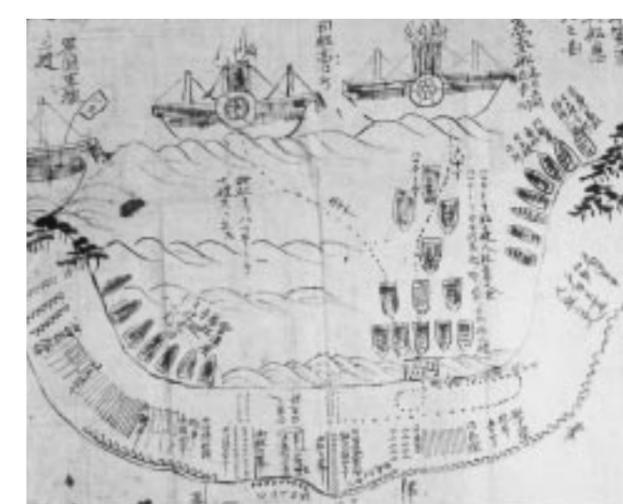
マイサークル 118



シェイプアップ体操



白石の古文書 ⑩



亜墨利加船浦渡来記
 表紙とも三十六丁・20x13・5cm、絵図一枚付きの大きさである。前半は、幕末に日本に來航したアメリカの黒船連の二コースを集めたもので、後半は、突然の異國船の來航に狼狽する幕府や、世情を歌ったチョボクレ(戯れ歌)を書き写したものである。
 書き出しは、このたび渡來の異國船四艘は、出し抜けに來たのではなく、昨年中にオランダ人を介して長崎へ申し出ていたもので、アメリカ合衆國の都・シンコント(???)より王命を受けた使節であり、王の書翰は應接の役人ではなく、奉行に直々に渡したいというのである。さらに、黒船については、意味不明のところもあるが「四艘の内二艘は大砲三台五挺据・蒸氣船一艘は同十二挺据・同一艘は総鉄張りで二十挺据、ハツテイラと唱候云々」。
 蒸氣船二艘は噂の如く車輪の廻り早く走り方至つて迅速云々……とあり、相当のつわざになったのである。
 本書には、さらに、アメリカ提出の書翰や幕府の返書・合衆國からの献貢物・幕府からアメリカ船への進物なども記録している。チョボクレも興味深いものである。絵図の「浦賀港異船應接の図」も異色である。
 (白石市図書館蔵)

国際コーナー International Corner



先月、寒いアイルランドからもっと寒い日本に帰って来ました！クリスマスとお正月は久しぶりに家族と、アイルランドで過ごしました。とても楽しかったです！
 私は、この帰省中に、アイルランドに留学している日本人の友達と会いました。そして、私が日本に来たとき、日本の文化などを丁寧に皆さんが紹介してくれたように、アイルランドの文化とおいしい食べ物などを彼女に紹介することができました。私にとって日本の皆さんの好意に報いるチャンスでした。
 クリスマス期間中に、友達をバブに連れて行きました。そのバブは山にあり、とても古くて、人気のあるところです。アイルランドで「見知らぬ人はまだ会ったことのない友達」ということわざがあります。そのバブに行って、このことわざを思い出しました。飲み物を注文したとき、「友達はもちろんギネスビールを飲んだ！」隣に座ったおじさんが彼女に「どこから来ましたか？」と話しかけてきました。そして日本だと言うとすぐ僕

は京都に行ったことがあるよ！”とっていました。
 そのバブでは音楽もありました。ワンマンバンドがアイルランドの伝統的な曲を演奏し、客全員と一緒に歌ったりしました。そのバンドの人が友達に感想を聞くと、「とても楽しかった」と感激している様子で、それを聞いて私もうれしかったです。



みんなで「スランチャー」(アイルランド語で「乾杯」)

(左から2番目は私の姉です)